

発展を続ける北区のまちは、どう変わる？

〈うめきた2期区域〉2024年夏頃一部先行まちびらき



全景イメージ(提供:うめきた2期開発事業者)

※2022年5月時点のイメージパースであり、今後変更となる可能性があります

うめきた2期地区
開発プロジェクト
HPIはこちら▶



南公園イメージ(提供:うめきた2期開発事業者)



北公園イメージ(提供:うめきた2期開発事業者)



構内イメージ(提供:JR西日本)



ホームイメージ(提供:JR西日本)

※関係者協議により今後変更となる可能性があります

2027年度の全体まちびらきをめざす「うめきた2期区域」では、『「みどり」と「イノベーション」の融合拠点』を目標に掲げたまちづくりが進んでいます。

鉄道の地下化や新駅の設定、都市公園や道路などの基盤整備、オフィス、商業施設、ホテルが一体となったビルや分譲マンションの民間開発のほか、官民が連携してイノベーション創出に向けた取組を進めています。

2024年夏頃の一部先行まちびらきでは、「(仮称)うめきた公園」の一部開園や民間宅地の一部の開業を予定しています。

●「みどり」の核となる 「(仮称)うめきた公園」

うめきた2期区域の「みどり」の中心に位置する都市公園「(仮称)うめきた公園」。多くの人々が訪れ、交流し、活気あふれる場となるとともに、都心に育まれた豊かな自然を通じて、人々が潤いや安らぎを感じる場となることが期待されます。

南公園は1万人規模のイベントが行える芝生広場や大屋根広場を有する都市的な空間、北公園は緑が多く自然豊かな空間となる予定です。

また、大規模災害時に一時避難者を受け入れられるスペースも確保し、防災機能を有する都市公園となる予定です。

※「みどり」…すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこで人間の活動が豊かに展開される緑豊かなオープンスペース

●近未来的な「うめきた(大阪)地下駅」

さらに先駆けて、2023年春には「うめきた(大阪)地下駅」が開業します。2025年春ごろには駅のすぐ上に、うめきた2期区域の玄関口になる新駅ビルも誕生予定です。

デジタル技術を集めた近未来的なシステムにも注目です。スマホと連動することで自分専用の案内が表示されるOne to Oneの「デジタル可変案内サイン」。あらゆる車両や編成に応じて自由自在に可動する世界初の「フルスクリーンホームドア」の設置など、JR西日本が様々な企業・団体と共創しながら最先端技術を発信していく予定です。

〈多方面で進む交通インフラ整備〉

●なにわ筋線整備

2031年春の開業をめざす「なにわ筋線」。2023年春開業予定の「うめきた(大阪)地下駅」とJR難波駅及び南海電鉄の新今宮駅をつなぐ路線で、区内では新たに「(仮称)中島駅」が設置予定です。

整備されると大阪(梅田)から関西空港までの所要時間は64分*1から44分*2に短縮予定とアクセスが大幅に改善されます。キタとミナミの交通経路も強化され、さらに便利なまちになります。

※1 最速の場合

※2 現時点での平均所要時間の想定。東海道線支線地下化・うめきた(大阪)地下駅開業による効果を含む

●淀川左岸線(2期)整備

淀川左岸線(2期)は、阪神高速道路3号神戸線(海老江JCT)から国道423号新御堂筋((仮称)豊崎IC)を結ぶ約4.4kmの自動車専用道路です。

整備により、市内中心部に流入する通過交通の減少が見込まれ、渋滞緩和や市街地環境の改善が期待されています。さらには、近畿圏の広域道路ネットワークが強化されるとともに、多重的な交通ネットワークの確保により災害等に強い人流・物流システムの確保につながります。



整備イメージ

おおせきこうもん

●淀川大堰閘門の整備

現在、淀川上下流の航行は、淀川大堰で分断されていますが、大阪・関西万博までの完成を目標に、淀川大堰の左岸側(北区側)に閘門(船が行き来できる航路)が整備され、万博会場となる夢洲まで船でアクセスができるようになります。

さらに、地震などの災害時には陸に代わる交通手段や、舟運を活用した周辺の公共工事による資材運搬など、多方面での活躍が期待されています。

舟運拡張による淀川沿岸のにぎわい創出や、淀川全体の広域が一体となった地域活性化などをめざします。



閘門完成イメージ

